日 0

以上の大パーティとなった。 長やその関係者など総勢450 A 力国 0 参加 があり、 Ш

ごやかな晩餐会となった。

上がり、 た当事者が、

会場いっぱいの大喝采を

私は参加せず失礼をした。

ティが行なわれたが、

不器用

照れくさそうに立ち

ダ山 かれた。 岳会創 私は 寸 1 0 お 招きを受け、 0周年祝賀会が、 日本山 バンフ、 岳会

18

1 月

ク 14

口 日

ッ

10

力

ナ

事務局長がかけつけてくれた事へ 開催した本会創立100周年祝賀 会長としてこの会に出 お礼の意味もあった。 この祝賀会への出席は、 ンフで国際山岳連盟 カナダ山岳会からキャメロ 総会が開かれたため、 ジ ブルース・ケイス で開 祝賀会前 昨年、 席した。 岳会会 Û 当日 祝辞の指名があった時のためにと、 を用意した。 気のなかでの開会であった。 は司会者の開会宣言の ない知恵をしぼり、 婦人同伴の正装で、 一切なく、 ナダ山岳会メンバー 日本山 食事とワインを楽し テー しかし、 [岳会としての祝辞 ブルごとの 原稿を何度か 華やかな雰囲 パー ほ か、 0 ・ティで 多くは 万一 む

どの、

各国代表の顔もあった。

ン・ロウ会長、

昨年本会の祝賀会に出席されたア メリカ、中国、 ちとけ登山談義に花が咲き、 席では、 大いに盛り上がった。 会長も同席であったが、 IAA会長代行のオランダ山岳会 を努めてくださった。初対面 支部長クラスのご夫妻がホスト役 インテーブルの席につい 先方の 心づか カナダ山 ネパール、台湾な いにより、 岳会事務局長と 会場には、 すぐにう 私 会は の U は X

あびた。 長から大変貴重な第一 感動の渦で、 雰囲気のなかで100 ダ山岳会初代会長の孫に、 心に残る祝賀会であった。 う、 ト遠征隊の報告書を贈呈すると 特に私の心に残ったの 心憎い演出であっ 実にシンプルでいつ それ 祝辞もセレモニーも は、 T " 次エヴェ 周年を祝う 1 ホ ロウ会 ま 1 力 4 V ナ な

真夜中の12時。 UIAA総会で、 イマさんが指名されたと報告があ ナダ山岳会会長のマイク・モーテ 最後に、この日の昼に開かれ 祝賀会はクライマッ 閉会した。 会場は総立ちの大喝采とな この後、 次期会長に前カ 祝賀会の終了 ダンスパ クスをむ

年の歴史のなかで功績のあった会

たびごとに、出席者にうながされ **貝一人ひとりを紹介した。紹介の**  挨拶の辞と、

カナダ山岳会100

会長がマイクの前に立ち、

歓迎の

祝賀会終了近く、

カナダ山岳会



2006年(平成18年) 11 月号(No. 738) 日本山岳会 The Japanese Alpine Club 定価1部 150円 URL http://www.jac.or.jp e-mail@jac-room@jac.or.jp

#### Ħ 次

カナダ山岳会創立100周年

記念祝賀会に出席して1
学生部パンバリ・ヒマールに
初登頂2
小倉厚さん 追悼4
東西南北 · · · · · · 6
公益社団法人への移行に関する私見
大正12年のスイス・アルプス
秋色の十勝岳
板倉勝盲遺躅之碑
第38回新入会員オリエンテー
ション開催・・・・・・9
支部だより・・・・・・10
越後/山梨/福井
『日本山岳会百年史』の配布に
7117 TURNET 12
南極地域での登山・・・・・・12
活動報告13
事業委員会/山の自然学研
究会
図書紹介 14
図書受入報告 · · · · · · · 15
会務報告16
ルーム日誌・・・・・・・17
会員異動17
さんけん通信・・・・・・18
INFORMATION · · · · · 19
▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 ・・・・・・・・ 10~20時
水·金 ······ 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 … 10~18時
年末年始休室 · 12月29日~1月8日

感激の全員登頂

# 学生部パンバリ・ヒマールに初登頂

隊長

加藤好美

何度かの徒渉を余儀なくされなが まだモンスーン期間であるため、 サールからキャラバンを開始した。 てカトマンズへ入り、23日にベシ 生である。 を頂いた。メンバーはベースマネ 進められ、 登頂した。この計画は日本山岳会 29日、アタック隊員5名全員が初 ari Himal 6887m) に挑戦し、9月 快適な地だ。この地をキャラバン 面の岩壁をはじめ、ギャジ・カン ていてパンバリ・ヒマールの南西 岳部で、関西から1名が参加した ージャー1名と、5大学6名の学 織し、ネパール・マナスル山群の 100周年記念事業の一環として 未踏峰パンバリ・ヒマール(Panb (3800%)に着く。ここは開け 8月16日、20日と2隊に分かれ 川ぞいに進む。29日、ビムタン 今年の夏、学生部は遠征隊を組 マナスルの上部も展望できる ぬかるんだ道をマルシャンデ 多くの会員からご支援 4校が首都圏の大学山

6 日、 かかり、 ゆっくり高所順応する。 22日、6280公のプラトーにC なる。経験不足から突破に時間 約800㍍のアイスフォール帯と ラルキャ・バザールから北上し、 キャラ (5100以) 峠を往復し、 ことはできなかった。 3を設営。だが稜線を間近に見る とヒドンクレバスに苦戦しつつも 日間天候が悪化。ホワイトアウト 40以にC2設営。21日夜から4 月18日、 5235以にC1設営。そこから フカン氷河に入り進路を西にとる。 に峠を越え東面へ。サムド手前の 初めての氷河に踏み込み、9日 4865以にBCを設営 アイスフォール上の57 予定より大幅に遅れ、 9月7日 9 が

出る。 29 日、 から5名全員でアタックに出発。 ールに初登頂した。 40分、5名全員がパンバリ・ヒマ たすらラッセルする。そして9時 取り付き、そこから約500%ひ モンスーンが明けた27日、 北側のコルから広い稜線に 星空を仰ぎC3を3時半に ВС

ベースとして6日間かけて、

ラル

の目で間近に見られる。それがパ

ンバリ・ヒマールだった。

いてくれた。彼らは私たちのため

彼らは終始、



アイスフォールを苦戦しながら進む

ずにいたが、海外登山への期待は た偉業の山、 登頂すれば大先輩たちが成し遂げ 思うのか。異文化での新鮮な刺激 い合い、一人ひとりがそこで何を たちだけの静かな世界を見たかっ もしれないが、日本とは違う自分 などさまざまな事情から実現でき 初のヒマラヤへの期待と好奇心 を存分に感じ取りたかった。 た。人と地球とがありのまま向 大きかった。若さゆえの好奇心か い思いを抱きながらも、部員不足 今年はマナスル初登頂50周年、 今回のメンバーは海外登山に熱 マナスルを自分たち か

# 計画・実力への疑問の声

ずつ解決していった。ミーティン 験となるに違いない も、それは次につながる貴重な体 頂き、さまざまな体験談を聞き勉 多くの方からのご協力とご指導を の大きなネットワークを利用し、 鋭的で困難な登山を行なっている 昔の先輩たちのように国内でも先 ない。例えそのやり方で失敗して に経験しないことには何も始まら うようにやってみることにした。 とし、自分たち自身で検討し、 強した。だが情報はあくまで参考 ないことがある度に、日本山岳会 や富士山へも通いつめた。わから グも最低週1回行ない、 れからの事だけを考え準備した。 から疑問の声が多くあったが、こ わけでもない。そのため準備段階 「百聞は一見に如かず」で、 全員が本格的な遠征経験もなく、 まず問題点を書き出し、 合同合宿 ひとつ 実際 思 2

# 異文化環境を心から楽しむ

タッフに出会えたおかげだ。 しんだ。それも素晴らしい現地ス 2カ月間のネパール滞在では高 病も含め、 五感でネパールを楽



# シェルパレスゆえの苦戦

神々が「また明日おいで」、そう励 ましているように感じた。 にオレンジ色に輝いていて、 毎日のように、夕日が白い頂の上 申し訳なく感じた。そんな夕方は りを待ってくれている隊員にも、 ルート工作隊のため水を作って帰 ッシャーもそのころ感じ出した。 れば時間切れで敗退、というプレ 迷路であった。1日かけてロープ 続いた。聞いていた通り、 が率先してのルート工作の日々が 営後、高所順応が順調で動ける者 6000公までのアイスフォー スも大幅に狂った。突破できなけ を延ばしても複雑なクレバスに行 く手を何度も拒まれ、タクティク 通過であった。9日にC1を設 登路での核心はやはりClから 氷河は Щ 0 ル

うになっていた。トイレも紙では

もスプーンを使わず手で食べるよ

(カレーに似た豆スープ料理

ていった。気がつくと、ダルバー き込んで着実にネパール語を覚え りで話しかけ、自らのメモ帳に書 力をする。だから私たちも体当た に日本語をできるだけ話すよう努

# 山頂に立ったとき

上だれも踏み入れた事のない場所 でいて美しかった。ここは人類史 0025峰! 圧迫感があった。それ 思わず立ち止まった。さすが80 大きなマナスルが飛び込んできた。 疲れを忘れ駆け寄った。目の前に 見える!」と叫んだとたん、皆、 「やったー、山頂だ! ビムタンが 登頂の瞬間を思い出す。 先頭が

> 込み上げてきた。とても清々しく 考えると、言葉にできない感動が かんできた。 てくれた多くの方の顔が次々に浮 になった。そして、これまで支え て、どことなく恥ずかしい気持ち だという興奮を抑えて我に戻って

まで持ち帰ることができた。 たスノバー3本以外はカトマンズ かなかったが、氷から抜けなかっ て欲しい。すべて回収とまではい し、あるがままの自然の姿を保っ くした。貴重な未知の世界である 全確保を最優先しながら最善を尽 収も、自分たちが決めたように安 キャンプの撤収・ロープ類の回

# 遠征が終わるとき

見えるもの、本質的部分を少し理

今にして思えば、

同じ目線ゆえに

ールと一体化することを望んだ。 自然に彼らと同じ目線に立ちネパ っていた。彼らとの交流を通じ、 いう行為において、実に利にかな を切り離すことができない登山と なく水を使用した。ごみ処理問題

たかった。 は多くの方々から刺激を受け、そ この学生部の集まりが楽しく、 ったようなもので、人一倍学生部 針となった。学生部に育ててもら れは私の考え方や方向性を導く指 心地のいい空間だった。学生部で 同期生がいなかったこともあり、 への思いは強く、 私は大学山岳部での部員不足、 その恩返しがし 居

征をした。 事業として学生部がムスタンに遠 04年に、 今回はその第2弾と私 同じく100周年記念

夢を叶えたいと願い続け、ついに はとらえている。当時、 今回の遠征をするに至った。まだ 感銘を受けた。そして自分もいつ まだ新米の弱小の学生隊であった か学生部として、他大学と一つの タンの報告を先輩たちから聞い

が、全員登山で役割を確立し、

いにカバーしあい、困難を乗り

さや魅力を伝えたい。 そして一緒に山に登り、 受けたように、今度は他大学の若 だけにとどまらず、自分が感銘を い学生に体験を伝えてあげたい。 岳部の現状である。自分のクラブ ってなんとか夢を実現できた。 部員の減少傾向は多くの大学山 山の楽し

い協力で貢献していきたい。 け継ぎ、次の後輩たちへ惜しみな だと私も思う。私はその意志を受 てムスタン遠征は今年終わったの 次の私たちに繋げてくれた。そし じめとする前回のメンバーは見事 支えてくださった。和田さんをは しゃって、さまざまな面で影から 自分たちの遠征なんだよ」とおっ このバトンを渡してあげるまでが みて、また新たに走り出す若者に Bの和田さんが「自分たちの姿を ムスタン遠征隊隊長の千葉大り

#### 小倉厚さん 追悼 2006年10月1日没 享年77

### 生涯愛し、 山岳会に奉仕した 関塚貞亨

てきた。その30年の間に会報、 さんは30年にわたって一人で作っ ら700号までの目録8冊を小倉 るが、そのうちの会報301号か 月の第1号以来14冊が作られてい 会に入って42年余り、 進行を早めたのだろう。日本山岳 年齢の割に若い肉体が、逆に癌 て僅かに3カ月後の急逝だった。 月1日に永眠した。癌が発見され 日記の担当理事を8年間務めてい に目録を作っており、 山 奉仕に終始した一生だった。 に強かった小倉厚さんが、 岳会の会報『山 一は50号ごと 昭和5年10 山岳会を愛 ılı 10

ちなみに会報651号~700

呈しているが、想像力を働かして はとてもできないこと」と賛辞を 稿は1冊の本ができるくらいの量 祐吉さんは「小倉さんの目録の原 その見出しは6ポイント活字で20 号までの目録は34項目に分類され、 会報の目録を見れば、作成は大変 までの会報担当理事を務めた岡澤 な仕事だとわかるはずだ。 「もある。 451号から500号 脚光を浴びるのが好きな人に

5 書いた。記事を読んだ小倉さんか ……」と言っていたのに、 めて褒められた。感謝状に優る何 ら「山岳会に在籍して4数年、 ってしまって残念だ。 ただいたのがせめてもの慰めだ。 よりの贈り物です」とお手紙をい 100周年の特別表彰に値すると 会報に目録作成の30年間の奉仕は あなたの追悼文は私が書くから 今年の4月に同好会・緑爽会の 小倉さんは私より4歳年下だか 5月初めにお会いしたときに 逆にな 初

筆家で読書家でもあった。 田クラブの会長になったのは、 くなるより前に完登している。 百名山がブームになって登りやす 小倉さんは本当に山に強かった。 山に強いだけでなく健 『山岳』 そ 深

前

の早い人であった。 締め切り前に送られてくる。 誰よりも早く立派な内容の書評が 色が変わる』の2冊の紹介文を書 50周年を迎えて』『山は日に五たび そして第百年にも『太郎平小屋 保護への造詣の深さがよくわかる。 筆しているが、それを読むと自然 第97年の図書紹介で『百名山の自 いていただいたが、依頼してから 東日本編、 西日本編』を執 仕事

れない。 年後は山へ登りなさい』が最後の 晩餐会で殿下から「『百山百譜』を めた本だが、百名山を目指してい 登頂するごとに詠んだ短歌をまと キングクラブなどへの投稿は数知 著書となった。そのほかに新ハイ して、ベストセラーとなった『定 をかけられた、と語っていた。そ 読ましていただいています」と声 る皇太子殿下も愛読したようで、 山百譜』。これは深田久弥百名山を われ』『新北越雪譜』に続いて『百 著書も多い。『山行く心』『山男

抽選で確保するのもひと苦労、 の涵徳亭は希望者が多くなって、 ていた。会場となっている後楽園 から有志閑談会の世話役を務め 日本山岳会への奉仕では、 3年 何

> 3年目の今年も6月に病いをおし 2年でお役ご免となるところが、 よりも世話役の後継者がいなくて 談会出席者の誰にも告げず、 者から癌を告げられていたが、 て世話役を務めた。その時には医 に世話役を務め終えた。 閑

の733号までの手書き原稿を、 というような最期であった。 したという。まさに壮烈な戦死、 しく頼む」と手渡して、後事を託 これからはできないので後はよろ 会報担当の神長委員長に「もう、 そして、会報の目録も6月発行

# 小倉厚さんを偲んで 室賀輝男

がきたと、 駄目でしたとの悲報に、くるもの なかった。 らの電話で主人は14時にとうとう 10月1日。小倉さんの奥さん 暫くお悔みの言葉が出 か

もらうことをすすめて電話を切っ 言っていた。とにかく東京には良 くなったので気落ちしている」と 家で寝ている。母が6月25日に亡 医者から手術はできないと言われ 6月末に、「酒もたばこも駄目だ。 病院があるから、しっかり診て

早く逝くとは思わなかった。 小倉さん自身は、 系であった。父上は営林署員から 堀直奇の輩下で、小倉主膳正の家 励まして別れて一カ月、こんなに りにし、病状の重大さに驚いた。 とはなかった。9月2日、ようや たが、病気のことは一度も聞くこ や助言で、何度も連絡し合ってい ている越後支部6年史の資料照会 日本山岳会の百年史と併せて進め 折々の山行報告は元気そのもので 軽井沢で喜寿の会をやった」と 六日町町長を務めた川窪の旧家。 会津移封国替で、 く浦和の自宅に見舞いに行った。 「今春、奥さんと栃木へ行った。 、ッドでの弱々しい姿を目の当た 小倉家は中世の越後で上杉家の 坂戸城主となる 旧制六日町中学

校時代、 越後支部で名を残した新



寄せられていたのである として広く県民に知られ、 集の中枢を担い、文筆活動で協力 を連載するなど、県出身の登山家 演会や、地方紙に山岳紀行や随筆 て山岳会や公民館で市民指導の講 した。また、深田クラブ会長とし 海省登山協会との交流登山に参加 をしてくれた。さらにカムチャツ としての山行はもとより、『新日本 の交流が広がった。越後支部会友 て堰を切ったように県内の岳人と カ半島トルバチク峰登山、中国青 山岳誌』の支部担当分の執筆、 む小倉さんの人柄に、登山を通し 期待を

会のツアーを、なぜか今春キャン 蔵鉄道一番列車に乗車する県山 06年7月1日に開通する中

交流が始まった。 の介護で浦和と六日町での二重生 その後退職とともに、病床の実母 としての交りがあるだけであった。 少なく、総会や晩餐会などで県人 活が始まり、 いた。現役の間は地元との交流も 入りであった。戦後、 生として、 井寛励先生(No1454)の門下 日本鉄鋼連盟に勤務して 山岳部で訓練した筋金 急速に越後支部との 東洋大学卒

を「ゴゼン坊の荷造り」という。

宿で旅の身支度を整えること

たからだろうか

越後では盲目の旅芸人の「瞽女」

セルしたのも、

病い

の前兆があっ

限りなく故郷の山と人を懐かし

案じている。 心から小倉厚さんの冥福を祈り 合掌

立ちに、荷造りが間にあったかと

やるかと小倉さんから声がかかり の準備の荷造りの「ゴゼン坊」を 山行で痛飲のあと、そろそろ明日

お開きとなる。あまりにも早い旅

## 『を愛した小倉さん 前編集長 今村千秋

報『山』の編集を引き継いだ時で 穏やかな笑顔で激励してくれまし す。会報委員会の席で小倉さんは ら7年ほど前、つい最近のことで 話をさせていただいたのは、今か した。前任の村井葵編集長から会 編集長は大変だよ」と、いつもの 私が小倉先輩に初めてお会いし、

先輩の方にお願いしますが 小倉さんが編集長をしておられ の思い出などは、 会報の50号ごとに発行する を知る 私の

> 残る原稿の事を話題にしていまし なー」などと言いながら、 ー」「パソコンなどは使えないから えたほうが良いかもしれないな 5世以上の手書きの原稿を取り出 倉さんは、 号の時でした。発行が近づくと小 し、「これからは項目のたて方を変 几帳面な小さな字で書かれた厚さ した。私が担当したのは、 『目録』を主に担当していただきま 400字の原稿用紙に 記憶に 700

続けていた小倉厚さんでした。 登る「山 まとめに全力投球してくださり、 ご冥福をお祈りします。 いつも会報 編集長を終えてからも『目録 と、会報 Щ の重要性を語 『山』を愛し

#### 小倉 厚(おぐら・あつし

臓ガンのために逝去。 県の山を中心に登りはじめる。 ら700号までの会報の目録8冊を 長を4年間務め、さらに301号か 学入学と同時に山岳部に入り、 まれる。 担当した。 1929年3月、新潟県六日町に生 日本山岳会入会。 1941年、旧制六日町中 2006年10月1 近 編集 9 新潟 肝

# 南北

N

#### 曲 郎

公益社団法人への移行に

関する私見

る その他によって承知のとおりであ 備がすすめられていることは会報 団法人として発足することにおい ては先の総会で承認され、その進 新制度制定に伴い、新たに公益社 れわれの日本山岳会が政府

を問わず登山の指導奨励に必要な までも社団法人として本部、 も基本的にはなんら変える必要は このような姿勢は新制度のもとで 事業を活発に行なってきており、 山活動を活発に行なう一方、 山岳会は自ら海外遠征を含む登 支部

からは、 Rがききすぎて、 ないと思う。 ところが、「公益社団法人」のP 日本山岳会は山登りはい 一部では 「これ

S

すので、1点につき1000字程

のではないか」との危惧の声を耳 るようになるのではないか、 い加減にして公益事業ば うような極端な誤解を招いている かりをす とい 度でお願いします)

ことだ。「自分の名刺に日本山岳会

会員なる肩書きが欲しい」とは考

ようによっては日本山岳会がステ えさせられる事ではあるが、考え

ータスとして見なされるだけの権

向かうとは思えないのだが、 に私見を述べ、 まさか本気でそのような方向に 問題の提起をした 以下

> れているとも考えられよう。 れで、それに値する内容が求めら 威と実績を持っていることの現わ

た記憶がある。 であって「山に登る」ことを第 山岳会」は「アルパイン・クラブ 長を仰せつかった折にも申し述べ 義とすべきことは、私が山岳会会 いうまでもないことだが、「日本

また山岳に関する研究を積み重ね 練は欠かすべからざるものであり、 れを避けるための真剣な訓練と修 ることも重要であろう。 山登りは危険を伴うもので、

還元することも「社団法人」であ じて得た知識、 このことを前提として登山を通 経験を広く社会に

どしどしご投稿く

果を社会に還元するためにこそ、 ろうか。 を忘れてはならないのではないだ 本来の登山活動に精進すべきこと た質の高い指導を通じて、その成 して高度の登山経験に基礎をおい 重ねて言う。「公益社団法人」と

# 大正12年のスイス・アルプス

岳会に所属する岳友が癌に侵され 8月末、 スイスのベルン大学山 を得たい」ということもあるとの いくつかの入会の動機の一つに た当然の責務ではないだろうか。 たわれわれ山岳会会員に課せられ 日本山岳会としてのステータス 山岳会の会合で聞いた話だが、 日本最古で最高の権威を持っ めた。 ユッテ (1955以) 岳友にも諮り、 スイスへ出かけた。癌を患うその の山小屋まで一緒に行くことにし、 ユ 残る命は数年だと聞き、ETH(チ ーリヒ)の岳友を誘ってどこか バルムホルン・ヒ の往復と決

この岳友には勝手の知れたルート ドで走るのだ。 た石だらけの車道をすごいスピー ネパールにあるようなごつごつし 内に25人ほどが肩を寄せ合って、 谷を、予約制で、満員の乗り合い 晴天をねらうことができたし、マ で決まった。おかげで、数少ない だし、観光客も少ないということ め、バルムホルンに70回も登った 699メル) マイクロバスに乗ることもできた。 イカー乗り入れ禁止のガステルン この山小屋はバルムホ カンデルシュテークから狭い車 に登る出発点となるた ルン 3

降り、 で維持している。 ションの有志が、 どころに取り付けられた10%ほど られた 1 計もない 小径を、 た。登山道は小屋を所属するセク のワイヤーを使い、 小屋への分かれ道で8人ほどが 見上げるような岩壁につけ 途中の岩壁に、 毎年、 約1時間登っ 勤労奉仕 ところ

岡澤祐吉

から先に Wilde Franc の預上に青ー汗ッ下 Oeschimate.?

ガイド手帳の写真に載っていた、中島夏雄の署名

「をはてきます」で Panduty へ下」放しました小生は

としかうプラ宝は一夜を明し望期九月日来のま人

カングアステンクよう Blumbialy 、 受上致一世日の夜下

一九三十

レイアンデ

生友人之及等內信

Mr

Have Bokey # 11/ FT) 1 吉田時十店方 中島夏雄 東京市上野村年教一两

かっかりが上すの人 Oto. Have Bothy 生意深く又地理に

Wilde France 8

预上達了下山致ま nations hakajima of Topio

节至

北

وادا 12 Japan alportingo

験があるすが時出っ Clypoには

50年前 レートがあった。 た18歳のイギリス人青年を悼むプ にバ ルムホルンで遭難死し

の日が少なく、われわれが小屋に

今夏はスイスも異常気象で快晴

いた8月23日以前に、そこから

ルムホルンに登った人の記録は

声をかけてきたのにはおどろいた。 北境界線周辺で働いていたという くっていて、 何ということもなしにページをめ ガイドの歴史を書いた本を買った。 スイス人がいて、「コンニチハ」と 小屋の客のなかに、朝鮮半島の 宿泊者名簿にはなかった。 シュテークの観光案内所に立ち この小屋からの帰り道、 日本人にはなじみのうすいそ カンデルシュテーク山岳 その本に大正12年、 カンデ 0

> ある。 もしれない。 るエシネン湖の写真でも見たの されたとも思うのだが、 島敏男さんより13年も前にホ どろいた。昭和12年に泊まっ テ 辻村伊助の『スウィス日記』 ユ ュ ij のアイガー東山稜初踏破に刺 ルリの小屋に泊まっていたので 1 ル 年代からすると、 写真が載っていたのには う人の署名のある、 リに泊まったという中島夏 ムリスアル プの 小 ある 槇有恒さ ガイド 11 1 ホ は あ 激 テ

引かれた。 とはどのような人なの ゃったら教えていただきたい 時計店に勤めていた中島夏雄 この東京上野 心当たりの人が 0 時計 か、 入商、 興味を いら 氏 吉

田

局橋文雄

どっ 手を挙げ心から挨拶を送りたい 昨日の雨にてこずった鋭鋒芦別 振り返ると富良野盆地を隔てて 遙か遠くに新雪光る大雪山連峰 左には嫋やかな美瑛岳から 十勝岳爆裂火口の太古の意思 逆光の行く手に立ち上る噴煙は 昨日登ったばかりの富良野岳 豁無碍な山々の佇まい しりと右に連なる山容は かと腰を下ろして北国の 秋は 岳

富山湾岸からの北アルブ 佐伯邦夫著/四六判/268頁/1995円 立山、黒部、剱、白馬、毛勝など北面からの新鮮な登山紀行。

#### 大峯奥駈道七

森沢義信著/A5判/312頁/2940円 吉野から熊野へ究極の山岳修験の山道と行場を克明に紹介。

#### 比叡山1000年の道を歩

竹内康之著/A5判/152頁/1680円 お山へ登る道、京への峠道、延暦寺三塔十六谷の堂塔を結ぶ道

#### 森林はモリゃハヤシではない

四手井綱英著/四六判/288頁/2100円 里山の名付け親・九五歳を過ぎた森林生態学者の魂の語り。

日本山岳会·責任編集 日本山岳会創立百周年記念出版 上製/クロス装/カバー掛け/函入り 18900円

〒606-8161京都府京都市 ナカニシャ出版 TEL.075-723-0111 左京区-乗寺ホノ本町15 ナカニシャ出版 FAX.075-723-0095

http://www.nakanishiya.co.jp/[表示価格は税込]

白い縁取りの襞は流れるように 噴火口跡が創る無為の砂礫台地を 急峻なガレ場を登りきると古 想い重ね弾む呼吸を整える 遠く過ぎ去った青春のひと時を 飄然と過る若い北狐の孤独な翳に 何不足ない晴れやかなこの光景を 咲く一叢の清楚な白玉の花 惜しみなく染め上げる 主峰十勝岳は淑やかに肩を傾げ 微かに硫黄を滲ませ風が吹き渡る 足元の赤錆色の岩蔭にひっそりと 古代ギリシャ彫刻の裳裾を想わ 0 樹 ナナカ 7 F を

日本全国4000山の情報を網羅!

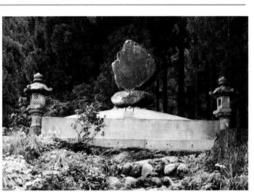
私の登る心を優雅に魅了する

# 板倉勝宣遺躅之碑

板倉勝宣は83年前 (大正12年1

さわしい呼び名であったというこ では「ワンデー」という名前で呼 自らに流出する、 にはこうある に、親友の松方三郎に送った手紙 で最後の穂先は単独で試みたあと とだ。板倉が2度目の雪の槍ヶ岳 ばれていたが、いかにも板倉にふ 下無類の人物であった。友人の間 あり、それが天賦の風格となって の特異性は板倉の存在そのもので えた。特異な風貌だけでなく、 彼の死は周囲に大きな衝動をあた 月)に立山の松尾峠で遭難した。 というような天

にとつて山やスキーはスポーツを 自然の聞き手であるのだ。 男こそ最もよく自然と話をする人、 た人の入る所だ。黙つて山を歩く 愛想をつかし上面を飾るのに飽き て歩きたい人が入る所だ。理屈に に来るのは見当違ひだ。 難解らしい理屈をこねる人は、 ば限りない味がある。他人の為に 「(略)歩く事自身にさへ深く入れ 山は黙つ 今自分 Щ



9月に修復された「板倉勝宣遺躅之碑」(撮影=小林康浩)

かつたからやつて居るのだ。 ではなく唯、 ようの何の彼のと云うような手段 通越してしまつた。身体をよくし (板倉ワンデー) やらずには居られな

以来、芦峅寺の人々により守られ 寺でその記念の催しを行なった。 補修工事を施し、 壊のおそれがあるため、 老朽化がすすみ放置しておけば倒 芦峅の案内衆によって建てられた。 る。遭難の2年後に板倉の友人や 悼した「板倉勝宣遺躅之碑」 てきたが、最近は訪れる人もなく 元の記憶からも消えつつあった。 立山の山麓の芦峅寺に板倉を追 (学習院山岳部OB会) 10月7日、 このたび があ 芦峅 が

習院中等科・高等科時代より山登 などと芦峅寺案内衆の一族、 日、立山弥陀ヶ原の松尾峠におい 記した案内板を立てた。 修復を記念し、碑前に次の りいただき補修記念の行事を行な 砂防博物館などの方々にもお集ま て遭難した。 「この碑の由来について」 教育委員会、立山博物館、 板倉勝宣は大正十二年一月十七

板倉を偲んだ。そして、

北大山の

の会の関係者

して、 登山の途上での事故であった。 が国近代登山の黎明期の先駆者と 身の槇有恒、三田幸夫らと共にわ 閉じた。行を共にした慶應義塾出 業し、京都帝国大学大学院進学を りをはじめ、北海道帝国大学を卒 目前にして雪の立山に短い人生を 板倉が大正8年3月に試みた槍 自らが唱えた積雪期スキ

えた。碑文は旧備中松山藩士、

荘

ま早世した板倉勝宣の存在をとこ としてありあまる才能を秘めたま としての可能性はもちろん、 田要二郎氏の起草になる。登山

人間

しえに留めようとする願いである。

平成十八年十月

これを意志的に唱えた。 ある。声高にではなく、 の方向に明瞭な指針を示したので 板倉はこの山登りにおいて、 点として記憶される必要がある。 板倉らしく控えめにではあっ ヶ岳は、現代まで続く登山の出発 板倉の死によって失 いかにも たが 登山

> エベレスト街道の高品質のロッジに泊まる ンボチェ・パノラマ・ホテルにも2連泊 展望ロッジ滞在ゆったりトレッキング

出発日(旅行代金) 112/22 (¥398,000)

2 3/ 4 (¥398,000)

享年二十七。

旧制學

33/18 (¥398,000) 44/8(¥398,000)

お申し込みはお早めに

e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

芦峅寺関係者 学習院輔仁会山岳部・山桜会 慶應義塾體育会山岳部・登高会 北海道大学山岳部 山の会

者と佐伯静氏ほかの芦峅衆によっ

われたものの大きさを惜しむ関係

て大正十四年十一月に建立された

老朽化により補修を加

# 第38回新入会員オリエンテーション開催

## 総務委員会

## 101年目の新入会員 多様な山歴を持った

約3分の1程度の参加があった。 海道や宮崎、 心な会員もいた。 参加者は例年より多く、遠くは北 なる。そのうち参加したのは36人 までの新入会員120人が対象と 4号室および会議室で開催した。 エンテーションを日本山岳会10 10月28日、第38回新入会員オリ 4207番から14326番 熊本から参加した熱

と20江以上減少していることにな 会員数は前回の155人と比べる 単純に比較はできないが、新入

伝統と現状を説明 った分、テーブルの用意ができた たが、これまでより会場が広くな めざるを得なかったのは残念だっ した。マイクが使えず、空調を止 初めてオリエンテーションに使用 今回は104号室を改装以来、

オリエンテーションは14時に開

ライフを楽しむようにと挨拶をし の歴史を紹介し、率先してクラブ 歓迎の挨拶があった。会長は当会 会され、 まず平山善吉会長による

の状況などが解説された。 中高年の遭難など、 委員長による「オリエンテーショ ロジェクターを駆使し、 ン」が行なわれた。当会の歴史を 続いて38~にわたる小冊子とプ 国内外の山岳会との関係、 最近の山岳界 神崎総務

である。 ときに作られたビデオが上映され についての説明に移り、 14時40分から当会の組織と活動 会の活動がよくわかるビデオ わずか15分程度の放映時間だ 90周年の

れた。ひき続き吉永総務理事から、 同好会からも説明と勧誘が行なわ と同好会の紹介をした。委員会や 同期会の説明を行ない、各委員会 なった。次に当会ホームページと 田総務委員が山岳保険の説明を行 次に永田が補足の説明をし、

> 説明があった。 事務局員の紹介と公益社団法人の

## 多様な自己紹介

で、「自己紹介と意見交換」が行な 休憩後、田邊副会長の司会進行

めた、いろいろ山岳界に尽力して を持つ、最近になって登山をはじ 自己紹介では、 50年以上の山歴

> に期待を抱いている方が多かった じることができた。また、入会に それぞれ多様な山への関わりを感 間150山登っている、本を上梓 いる、 のが印象的であった。 あたり、これからのクラブライフ した、スキーや写真が好きなど、 海外の山を登っている、

記念撮影の後、場所を会議室に

り、 始まったようだっ 画を立てる人もお 長や理事、委員会・ 移し、懇親会が行な そく同好会に申し 委員を含めると、新 同好会それに総務 われた。会長、副会 込む人や、山行の計 いに賑わった。さっ いになり、会場は大 入会員と同数ぐら クラブライフが

終了した。 長の閉会の挨拶で 最後に 橋 本副 会





第38回新入会員オリエ ョンに参加の皆さん



全国各地の支部から それぞれの活動状況を 北から南へとリポート します。

## 支部創立60周年記念 平ケ岳登山

文 迎えた。人でいえば還暦である。 ものを覚える。 心を捉えて離さない魔力のような るということに、大自然には人の 登山という一つの行為を生涯続け 山に登る目的はそれぞれであるが まで六代を経て今日に至っている 大六支部長 1988年没) から、 長島島玄(新潟市・Nolo33・ 時代である。以来、 人々に登山など考える余裕のない 立した越後支部は、今年60周年を 戦後間もない世相の混乱期に創 昭和21 (1946) 年12月に創 当時は生活に追われる日々で、 (関川村·No 5804) 初代支部長の 現在の平田

②12月記念式典、③記念誌 目に、記念事業として①記念登山 越後支部では60周年を迎えた節

> 進めている。 山岳11号』の発刊を計 ここに、すでに実施した平ケ岳 画 し準備

りや、百名山の仲間入りするまで 予定の平ケ岳と深田久弥との関わ 員(深田クラブ)から、 21412 (越後三山只見国立公 岳登山の予備知識を得た。 の経過について講話を受け、 伝之助小屋」に36名が集う。 9月9日夕刻、 高辻謙輔(N9363)支部会 記念登山の概要を報告する。 湯之谷村銀山平 明日登山 平ケ

まで送ってもらう。 これから登る平ケ岳連山を仰ぎ見 く日の出を迎え、 クロバス2台で中ノ岐川林道終点 №12925) の計らいで、 伝之助小屋の主人(佐藤邦雄会員 10日早朝、 4時前の出発である。 渓谷の向こうに 終点でようや マイ

和。 天候は快晴無風で絶好の登山日 行は順調に高度をあげ、 草

に静まり指呼の距離にあった。

頂は中央分水嶺で、

裏は利根

ている。

その平ケ岳山頂は草原の向こう



に相応しい登山であった。

\*越後支部では、周年記念登山

で案内し参加者を募っ 今回は自然保護の観点

山した。支部創立60周年記念山行 満喫した一行は、計画通り無事下 きっていた。初秋の風を頬に受け は四方さまたげるものもなく、

H

川の源頭になっている。

山頂から

本列島をも見渡すほど空気も澄み

原の中に今にも台座から転げ落ち

理解いただきたい。

横山征平

会員36名に限定実施したことをご からオーバーユースを避け、

支部

てきたが、 会報『山』

聞いた。 そうであった。ここで桜井昭吉会 紺碧に染まり、 そうな、奇岩の卵石に着いた。古 員(No 5021)から昭和37年9 した。なかでも姫ノ池は空を映し 変わり、点在する池塘が姿を現わ くなった木道から雲上の散歩道に 深田久弥を案内した時の話を 天と地を見間違い

沢沿いに5日間をかけようやく平 男の2人で、登山道のない時代、 ケ岳に達した 「案内したのは深田久弥・藤島敏

ノ池にて、

後方は平ケ岳

### 山梨支部

# 第47回木暮祭

化の影響もあるのか、 瑞牆山の白い岩肌が青い空に浮き 面に立つ五里山は、 る。かなり以前になるが、初めて が年々遅くなっているように感じ の状況であった。天候不順や温暖 立つように映えていたことを覚え や黄色の紅葉に包まれ、 付近では紅葉の盛りであったが、 木暮祭に参加した時、 1400公の金山平ではまだ走り 10月15日、奥秩父の2000は あでやかな赤 金山平の前 紅葉の時期 金峰山



木暮翁碑に献花と献酒を行なう参加者

績をしのんだ。 挨拶を行なった。その後、 副会長、坂本JAC支部委員長が を頂き、参加者全員で木暮翁の業 加いただいた大塚前会長より祝辞 委員会の八巻会長、遠藤山岳連盟 急遽参

祭典終了後、 会場を広場に移し

> 講演を聴いた。 連携など、奥秩父にまつわる記念 の憶ひ出』に残る2枚の写真の話 は23歳であったことや、著書の『山 暮理太郎と須玉の山々」と題し、 JAC会員の矢崎茂男氏より また三富の田部重冶の文学碑との 木暮翁が初めて金峰山に登った時

による手作りの山採りキノコが入 った「ほうとう」などをいただき 講演終了後、 地元観光協会役員 (小宮山 稔

例のJAC会員らによる献花と献 協会副会長の開会の挨拶の後、

酒を行なった後、主催者の木暮碑

を添えていただいた。

14時、木暮翁碑前にて津金観光

塚前会長の参加をえて、

祭典に花

たが、所用により山梨を訪れた大

係者による質素な開催予定であっ にあたり、地元、岳連、JAC関 さて、今年の木暮祭は狭間の年

## チベットの無名峰 5960注)登頂

観光や食料買出しなどをして過ご 期間は9月3日~19日である。 ワの白い峰を見る。 上海へ。4日、ラサ空港到着。 の白木貞次、木下喜代男の8名。 東亨、宮本数男、 を結成。メンバーは福井支部の伊 山群を目指し「チベット登山隊 9月3日に福岡空港を出発し、 チベットの未踏峰メンタカンリ 飛行機の窓からナムチャバル 江田晃、 田路繁男と岐阜支部 川口宗、 5日と6日は 大和康



頂上に立つ宮本、右奥がメンタカンリ峰

の人々は大きなテントで生活して を壁に張り付け乾している。放牧 を越えると美しい湖がたくさんあ BCに到着。 テルを出発。3台のランド・クル トラックに積み込み、 ってダンスをしていた。18時45分 いる。広場では村人たちが輪にな ンガをのせて造った家、ヤクの糞 しい。麓の村には石積みの上にレ ザーに乗り込む。南西方向へ峠 7日、 白い雪を頂にのせた山々が美 を目指し、共同装備と水を いよいよBC 9時55分ホ (約528

ート偵察に出かける。 所順応を兼ねてメンタカンリ峰 8日、8時起床。 10時35分、 約20分登り 高

> 偵察に使う予定の馬は降雪のため 15時35分、BCに戻る。 せるものの、全貌を現わさない。 の下部をガスのなかにチラチラ見 輝いている。メンタカンリ峰もそ スのなかに国境付近の山々が白く りつくように咲いていた。13時20 生えているセラミックのような岩 悪い。コケのような植物が所々に イワブクロに似た花が地面にへば 石の尾根を登る。 ンのはためく峠はガスで見通しが 5380㍍の峠に着く。チョルテ 9日、 57842ピークに着く。 BCはうっすらと雪化粧 青いリンドウや ガ

キリマンジャロゆったり登頂とサファリ 1 75895m(左)と火口氷河 003 東京都港区西新橋3-24-8山内ビル4階 3437-8848 E-MAIL info@everest.co.jp

雪が続く。 からアタックすることにした。降部に適切な場所が見当たらずBC側を偵察し、C1地点を探すが上来ないという。徒歩で谷の向こう

を散策して過ごす。 10日、馬が来たのでBCの周り

14時28分、今回の最高点である5960以ピークに達し握手を交わした。このピークに達し握手を交わした。このピークに赤標識を立わした。このピークに達し握手を交わした。このピークに乗りがの3角でる。目の前に6160以の3角である。その岩壁を眺め、立ちはだかる。その岩壁を眺め、立ちはだかる。その岩壁を眺め、立ちはだかる。その岩壁を眺め、立ちはだかる。80場前に乗りる。

日は、東チベット観光に出かける。 は1週間以上かかると許可されには1週間以上かかると許可されには1週間以上かかると許可されなかった。無断入域で検挙されると500㎡の罰金とのこと。そのと500㎡の罰金とのこと。その、山を眺めたりして過ごす。たり、山を眺めたりして過ごす。19日、福岡空港経由で21時過ぎ、19日、福岡空港経由で21時過ぎ、19日、福岡空港経由で21時過ぎ、19日、福岡空港経由で21時過ぎ、19日、福岡空港経由で21時過ぎ、

田路繁男

# ついて |日本山岳会百年史』の配布に

『山』10月号でもお知らせしまし作業は、年内の完成を目指して最終段階にかかっております。「本編」および「続編・資料編」「本編」および「続編・資料編」出来上がり次第全会員あて発送出来上がり次第全会員あて発送出来上がり次第全会員あて発送したしますが、不要の方がおいでしたら予め事務局(左記)にハガキで申し出てください。

◎№∞ 東京都千代田区四番町5−4

12日、BCを出発。13日から15

# 南極環境保護法に基づく手続きが必要です南極地域での登山には、

環境省地球環境局環境保全対策課

ている方へお知らせです。 南極大陸に上陸して登山を計画して (4897) への登山など、フ (4897) への登山など、

南極環境保護法(平成9年公布、南極環境保護法(平成9年公布、正裁11年完全施行)第5条第1項に基づき、南極地域(南緯60度以に基づき、南極地域(南緯60度以行なう場合は、その活動について環境大臣へ申請して、南極地域に与える影響に係る基準を満たして与える影響に係る基準を満たしている旨の「確認」を受ける必要があります。

> 意ください。 ・ は場合がありますので、十分ご留 を場合がありますので、十分ご留 を場合がありますので、十分ご留 のどちらかの手続きが必要となり、

#### 連絡先

□□₩5 東京都千代田区霞ガ関 □□₩5 東京都千代田区霞ガ関 環境省地球環境局環境保全対策課

03-55521-8245 1-3348

図antarctic@env.go.jp

き道をたどる。空は晴れて谷間 泉を出発。安政火口を過ぎ長い巻

木々の紅葉が美しい。12時、

更。8時50分、登山口の十勝岳温 とのことなので富良野岳登山に変

登山口までの道が通行不能

## 動 報 日本山岳会の 各委員会、同好会の 活動報告です

紅葉山行に参加 業委員会 5

芦別岳、 には、北海道支部副支部長の長谷 参加者7名で、 しんだ。 委員会主催の北海道紅葉山行に参 部参加した。また、 雄助さんが駆けつけてくれた。 29日は夕張岳を登る計画であっ 9月28日に新千歳空港に集合。 9月28日から10月2日まで事業 参加者は事業委員3名と 天候に恵まれて富良野岳 十勝岳の快適な登山を楽 他に男女各1名が 芦別岳登山

開始。 狭い頂上に着く。下りの途中から 12時55分、 道沿いの木々の紅葉がさまざまに を持った長谷川さんがしんがりを りやすい。 板のあるあたりから道は急になる。 変化する。 つとめる。 雨になる。 晴天のもと長い尾根を登る。 「呻吟坂序曲 岩場を登ると芦別岳の イタヤカエデの太い杖 急な道はぬかるんで滑 という看

噴火口から白い噴煙がまっすぐ上 呂で汗を流す。 15時10分、 良野岳などが一望の下に見える。 大雪山、 り昭和火口に出る。ここからは がっている。 木一草もない砂利道を登る。 岳登山口の望岳台発。 10月1日快晴。 十勝岳頂上。北東に冠雪の トムラウシ山、 下山して、 10時15分、 7時30分、 前方の62Ⅱ 吹上露天風 急坂を登 南西に富 11時

前田真三の拓真館に寄ってから旭 10月2日、 美瑛町にある写真家

野岳頂上。十勝岳方面がよく見

30日6時50分、

芦別岳への登山

15時30分、

登山

口到着。

げで楽しい山登りを堪能できたこ 長谷川さん、参加者仲間のおか 事業委員会の方々、

川空港で解散した。

#### 北アルプス研修山行 とに心より感謝したい 山の自然学研究会

高井延幸

なった。太郎平小屋の五十嶋博文

る。

雲ノ平方面も木道を中心に進

氏に迎えられ、

いつもお世話にな

められ、

雲ノ平キャンプ地への

道

地形、 俣蓮華で合流、 野口五郎経由に分かれて入山、 部太郎平、 心に研修山行を重ねてきた。 調査をテーマとして北アルプス中 スで研修山行を行なった。 やま学研」は10年程前から氷河 本年は8月25~30日、 山の成因や登山道の荒廃度 雲ノ平経由と烏帽子、 双六、鏡平のコー 北ア中央

帯・断層の研修を行なった。 調査と地質図を持って地質・地層 調査した経験に基づくものだ。 まで立山地域を5年にわたり研修 して氷河カールやモレーンの状態 野口五郎小屋、 すなわちA班3名は烏帽子小屋 赤牛岳 研修を行なった。 ( 往 復) 水晶小屋を拠点と まで足を延 昨年 水

地の登山道荒廃度調査の結果に基 В 班5名は10年余にわたり、

北海道支部 対策が進み、 状態を調べてきた。 になっているかを中心に調査を行 づいて、ここ太郎平、雲ノ平に絞 荒廃度の進み方や対策の進捗 その成果が良い方向 今年は登山道

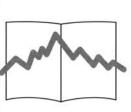
られていた。 A班・B班は予定どおり、

を止め高山植物の復元対策が進

地形を研修、 を観察できる所であるが、 と霧の山稜を行く。稜線から見え できない。双六岳東尾根の周氷河 上段の巻き道の荒廃度の明確な差 るはずの双六岳下段の巻き道 山荘で合流、三俣蓮華岳、 双六小屋に投宿。 今日は 双六岳 同

告書 然保護活動の研鑽に役立てばとい う気持ちで活動している。 呂で疲れをとり帰郷した。 京懐石料理に舌鼓を打ち、 これらの研修成果は当会研究報 鏡平経由、 毎年の研修山行で少しでも自 『やまの自然』に収録報告す

新穂高温泉双六荘の



#### 「鎮魂のカラコルム 石川 信 義



岩波書店刊 四六判 216分 定価 2205円

著者の旅の記録である。 39年ぶりにこの地にたどり着いた いう自分への約束を果たすべく、 を失い、必ずここに戻ってくると 稜線上で発生した雪崩で、 これは、 ヒマラヤの高峰 山仲間 の鋭

隊長として指揮をとり、遭難の後 崩で失った。著者はこの隊の登攀 どの稜線で隊員の中村岳生君を雪 2点) に南稜から挑み、 征隊はカラコルム・ヒマラヤの未 1965年、東大カラコルム遠 キンヤンキッシュ 7200 785

> 優しいまなざしで著者を見守って をエスコートして同行し、 ンバーである寺沢玲子さんが著者 長い時間を経て得た機会だった。 さなケルンを積んで忘れな草で覆 点の見える高台にたどり着き、 陥を抱えて気息奄々として遭難地 ている山岳同人「パハール」のメ ヒマラヤでの先鋭的登山を実施し て日本の精神医療の改革を志し、 分に誓った。74歳になり心臓に欠 必ずこの地に帰ってくることを自 る様子が心に残る。 この隊の報告書を読んでこの山 一人で祈った。精神科医とし 何度も遠征を試みる、 暖かく

想いと、当時選んだ登路の正しか 至り、 び、 の道筋でかつての遠征の道をし 再会を喜ぶ。 イウェイの険路をギルギットに イスラマバードからカラコ 当時のハイポーター2人と フンザを経てヒスパー氷河 失った山仲間への ル

> 中村勝郎氏である。 て前穂高東壁などに名前をはせた 君は、戦前RCCのメンバーとし 行してBCまででかけた。 の南稜を経てのこの峰の登攀に同 待たずに今年再び同人「パハール」 ちなみに亡くなった中村君 の父

ったことの確認を果たし、

著者は

接のきっかけとして現在に及ぶ長

りだと勇気づけられた。 願っている人たちへの応援歌(エ 秘めている約束事を果たしたいと 手紙をベースにしているので、 で息もつかせずに読ませる。 の筆致はある意味で激しい語り この文は著者の古い畏友あての ル)だと書いているが、 前書きに、それぞれに心の中に その通 7

(藤本慶光)

アフガニスタン書誌

明治期~2003

2003年12月 金沢文圃閣 A 5 判 3905 21000円 定価

・スペースタン書誌 アフガニスタン書誌 - 明治期~2003

満足する。そしてこの本の出版を ラヤ周辺の山を目指した結果であ 山が禁止され、多くの岳人がヒマ 係の本である。それはヒマラヤ登 多く見られるのは、登山・探検関 前のこの国に関する文献で比較的 のソ連侵攻をきっかけとしている 著者が1980年に『アフガニス 関する文献は極めて少なかった。 れる国ではなく、従ってこの国に ンは、戦争前は世界的には注目さ 大成したのが本書である。 ガニスタン関連の文献や論文を集 タン文献目稿』を作ったのは、こ が、その後これを基礎にしてアフ 戦乱の日々が続くアフガニスタ いわゆるアフガニスタン事件以 探検・冒険のいわゆる未知

のは、 世界を探る目的であった。 が一躍世界の檜舞台に躍り出した 曲がりなりにも平和であった国 アフガン戦争であり、 その

う面からだけでなく、 という項目で占められていること の各地で戦争が起こり、アフガニ 社会・戦乱、 ことは本書の半分以上が、現代の スタン問題が忘れ去られつつある からもうかがえる。その後、 本書をきっかけに戦争とい 難民・女性問題なども 山や文化、

全長

1

0 0

強

登

山

道

0

北海道中央分水機踏査記録

2006年10月

A 5 判 188分

定価 1000円

日本山岳会北海道支部

るのは約20%。

これを2年半の

期 あ

に一支部で踏査する。

途方もな

H

の一つである中央分水嶺踏査の 山岳会の創立100周年記念行 計画と誰もが思うであろう。 も多くなればと願う。 民族などに眼を向ける人が少しで

新妻支部長は、「支部の総力をあげ

「本当に出来るのかな?

と支部長会議で宣言

北海道支部担当分である。

それ

掘込氏のご冥福をお祈りしたい。 整備にもお力添えをいただいた。 本人も残念であったろうが、 は本書校了の翌日に急逝された。 思われる。 さらに充実される予定であったと ける大樹のようなもの。で、 に「完成ということのない育ち続 るが、あとがきに述べているよう 0点にも及ぶ項目が掲げられてい われも残念である。本会図書室の 明治期から現代にかけて500 しかし、 編者の 掘込氏 われ

ろう。 した。 て実施する」 大部分の出席者は思ったことであ

ある。 のだ。 年6月に見事予定の期間で踏査を 完了し、 ところがどうであろう。 ただただ頭の下がる思 宣言を実行してしまっ 13 た 本

で

2 0 1 回、 データ類が整理され、 れている。 途中に関連する山の回想が挿入さ でを順次踏査した会員が執筆し、 139名に及んでいる。 た力作である。 る 参加者数968名、 本書は、 北の宗谷岬から南の白神岬 トの詳細な説明があ また、 延べ日数267日、 その踏査記録をまとめ 踏査は、 巻末には貴重な 実参加者数 掲載され 最初に、 延べ ŋ その 回 延 7 数

北海道中央分水嶺踏査記録

日本山岳会北海道支部

· 刊

伝わってくる。「今回の踏査は探検 りで記載されているの いものであったかが、 ための厳しい山行の様子が写真入 インディング、 なかでも、 分水嶺上を忠実に歩を進める 中央分水嶺踏査が 雪原での 脆い岩稜の 読者によく 13 が注目され ル かに厳 1 登攀な 1 フ 7 申

登山では得られない貴重な体験 的である。 という支部長の巻頭の言葉が印象 と冒険の要素を必要とし、 ガ イド

も高く評価されている。 も書評が掲載されたことからも分 かるように、 10月の刊行と同 毎日の3大新聞の北海道版 その意義は社会的 時 に H

この計画がなぜ支部会員の心を動 ろうか。これらの疑問を支部長に たのだろうか。 から楽しみである。 に刊行されるそうで、 余話などをまとめた書が来年4 ぶつけたら、 えた会員が多くいたのではな かして総力で取り組むことができ ところで、 本書の姉妹編として、 当初は無謀と思えた また、 こちらも今 縁の下で支 11

3 4 1 12 キで 10333 し込んでほし (送料不要)。 本書は188%で1部 高澤光雄会員あてに 札幌市白 購入希望の方は 森 岩区 10 武昭) 北郷 0

円

ガ

図書受入報告 (2006年10月)

ページ・サイズ 出版元 刊行年

名 北海道中央分水嶺踏查記録 宗谷岬から白神岬まで 丹沢大山総合調査チーム(編)アトラス丹沢(第1集)――丹沢大山名総合調査

丹沢大山総合調査チーム(編)アトラス丹沢(第2集)-一丹沢大山名総合調査 丹沢大山総合調査実行委員会(編)人も自然もいきいき「丹沢再生」

大ヒマラヤ探検史-ーインド測量局とその密値たち 薬師義美

小川誠 チョモランマへの道――小川誠写真集 和田光明(編) 山の気象研究会の歩み---2006年10月

全日本山岳写真協会同人「遙」写真集 山の気

氷壁のシュプールー 槍、滝谷、モン・ブラン滑降記 植木毅 Michael Brandtner Minya Konka ---- Schneeberge im Osten Tibets J. Harlin II, K. Cordes (eds.) The American Alpine Journal (Vol. 48, 2006) The Himalayan Club (ed.) Mt. Kamet (7756m) Commejorative Souvenir 2006

寄贈/購入別 日本山岳会北海道支部 2006 発行者寄贈 188pp/21cm 丹沢大山総合調査実行委員会 2005 関清氏寄贈 15pp/30cm 50pp/30cm 丹沢大山総合調査実行委員会 2006 関清氏寄贈 関清氏寄贈 220pp/30cm 丹沢大山総合調査実行委員会 2006 389pp/22cm 白水社 2006 発行者寄贈 78pp/30cm 東京新聞出版局 出版社寄贈 2006 107pp/26cm 山の気象研究会 発行者寄贈 2006 東京新聞出版局 出版社寄贈 2006 84pp/25cm 松沢節夫氏寄贈 253pp/20cm あかね書房 1968 336pp/23cm Detjen-Verlag 2006 Mr.W.Heichel 寄贈 The American Alpine Club 2006 発行者寄贈 519pp/23cm 166pp/26cm The Himalayan Club Kalkata Section 2006 発行者寄贈



### 10月理事会

場所 日本山岳会会議室 15分 15分 20時

【出席者】平山会長、平林·田邊各

今村各常任評議員野口・斎藤・藤井・石橋・古野各野口・斎藤・藤井・石橋・古野各副会長、吉永・贄田・石田・篠崎・

理事·小倉常任評議員 【委任】橋本副会長、大蔵·渡邉各

がなければならないこともあると 事項が多くある。来年度へ引き継 年度末に向かって実施すべき懸案

思うが、出来得る限りの実行・実

現に向け、理事各位の尚一層の努

力をお願いしたいとの挨拶があっ

#### 審議事項

去る10月10日、財務担当常務理ついて - 平成18年度上半期監査結果に

(指摘事項) (指摘事項)

理をより厳重にすること。②貸金庫の管理方法、特に鍵の管記入(訂正等)を明確にすること。②支払請求書及び交通費請求書の成しておくこと。

# **局憲政記念館** 2 資料出陳協力願:衆議院事務

井淳子会員の登山靴の出展依頼。 | 女性参政60年特別展 | への田部

# 年次晩餐会について

3

10月20日頃発送する予定であるが、なお、各会員への晩餐会案内状は、いて報告があり、概ね了承した。年次晩餐会の内容及び進行案につ年次晩餐会の内容及び進行案につ年次明報を開催予定の平成18年度

した。 するアンケートも同封することと 会員名簿への住所等搭載希望に関

# 葬儀への供花について 4 ネパール、ハルカ・グルン氏

去る9月22日、ヘリコプター事法る9月22日、ヘリコプター事故のため死去されたハルカ・グルン氏は1988年の「中国・日本・ネパールチョ年の「中国・日本・ネパールチョモランマ/サガルマタ友好登山モランマ/サガルマタ友好登山られたこと等から会長名で花を供られたこと等から会長名で花を供えることとした。

## 5 その他

(1)委員会委員の任期について(1)委員会委員の任期は原則として4年までとく見られるため、今後、細則の規されているが、実際は相当長期間されているが、実際は相当長期間されているが、実際は相当長期間されているが、実際は相当長期間が多く見られるため、今後、細則第4条によれば、委員会委員の任期について

## 【報告事項】

(承認)

**征隊について(吉永)** 

国する予定。 登頂に成功した。10月15日には帰去る9月29日、5名の隊員が初

2 ネパール、

ハルカ・グルン氏

て(田邊)のヘリコプター事故の報道につい

名の弔電を発した。

# 3 名誉会員を囲む会(吉永)

を摂りながら懇談した。 出席され、会務報告ののち、昼食 出席され、会務報告ののち、昼食 おいて開催。山田二郎・松丸秀夫・ おいて開催。山田二郎・松丸秀夫・

# 外委員長・文書)4.タンザニア大使来訪(貫田海

員長及び神崎総務委員長が応対。 ついて意見交換した。貫田海外委登山及び両国の登山家の交流等にムに来訪され、「キリマンジャロ」大使、E・E・E・ムタンゴ氏がルー大のででである。

# 3 中央分水嶺路査事業の進捗状

書発行の進捗状況について報告が書発行の進捗状況について報告が

# (平林)

の「アンデス・ヒマラヤにおける 国立民族博物館教授 山本紀夫氏 潤次郎委員が就任した。今年度は、 潤次郎委員が就任した。今年度は、

次回委員会で結論を得ることとし 推薦があったが、 高地民族の山岳人類学的研究」 て、推薦資料を検討することにな 11月8日開催 0 0

#### 7 全国支部懇談会 (平林

った。 れ、全国より200名の参加があ 管で永平寺及び芦原温泉で開催さ 去る10月7日~9日福井支部主

#### 記念式典(吉永 8 カナダ山岳会創立10 0 周

することになった。 夫妻が出席されているため、 14日開催予定のカナダ山岳会創立 会創立100周年記念式典に会長 100周年記念式典に会長が出 カナダ山岳会からは、 昨年の本 10 月

てと医療 会「山岳・辺境における救急手当 医療 (委) 海外 開催について (委):講演 (野口

盛会裡に終了した。 札幌で本会ほか4団体の共催で開 日東京、 ジム・ダフ博士を招き、 総計334名の参加者があり、 9月21日大阪、 9 月 22 日 9 月 20 16 日 12 日

# 況について(贄田 委員会予算の上半期執行

計 画にしたがって、 執行額0の委員会がある。 着実な執行を 事業

> 予算について 望みたい旨の報告があった。 全国自然保護集会にか (贅田 か る

算についての説明があった。 催される全国自然保護集会関連予 来る10月21日~22日、 大山で開

9月度入会者 17 名

10月号に報告

#### ال 丛 0 F

2 日

総務委員会

5 日 4日 3 日 事業委員会 図書委員会 フォトビデオクラブ クラブ T ルパ 100年史委員会 インスケッ 資料映像委員 山岳地理クラ チ

11日 10 日 理事会 01会 アルパインスケッチクラブ 山想俱楽部 自然保護委員会

学生部 計 スキークラブ 資料映像委員会 画委員会 山の自然学研究会 ア ル 長期登山 18 1

00会 ネット 自然保護委員会 小委員会 インタ

17日

19日 18 H 三水会 科学委員会 つくも会 高尾の森実行委員

23 日 20 日 員会 総務委員会 資料映像委員会

24 日 山研運営委員会 ンスキークラブ ア ル 1

25 日 常務理事会 麗山会 ゆきわり会

26 日 山遊会 自然保護委員会 ークラブ アル 18 インス 青年 部 丰

27 日 新入会員オリエンテーショ 総務委員会 百年史委員会

30 日 31 支部化促進委員会 員会分科会 モリ研究会 専門委

10月来室者59

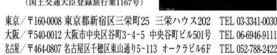




個人手配旅行から人気のトレックツアーや エクスペディションのアレンジまで。充実 度が違う「旅」のブランニングをこころがけ ています。山旅などあらゆるジャンルを取 り扱っています。お気軽にご連絡ください。

#### 株式 アトラストレック

(国土交通大臣登録旅行業1167号



#### 中央分水嶺委 九五会 阿部克雄 渡辺典夫 野川初江 小倉 山中君子 稲垣信生 小谷恵夫

星根文子

## 退会

(13695) 関

#### 会員異動 物故 10月

#### ○さんけん通信○

#### 上高地は「たっぷりの紅葉」 山研管理人 内野慎一

上高地での紅葉の幕開けは鮮やかでした。 10月初めのことです。雨のため穂高や明神岳 が雲の中に隠れ、再び現われた時には、高い 所の山腹の草木が黄色くなっていました。ま るで舞台の幕が閉じて開いたかのような劇的 な演出でした。

また、「せーのっ」とみんなで合わせたかのような足並みの揃った変化。どこかで紅葉のスイッチがパチンと入ったのかと思わせる、デジタルな印象を受けました。

紅葉が下がってくるさなか、体育の日の3 連休には初冠雪がありました。上高地では三 段紅葉を楽しめた反面、稜線では遭難があり ました。

遭難のときはヘリの様子がいつもと違うの で、山研の中にいても気になります。普段の 山小屋の荷上げは、たいてい平日で、山研の 裏側のお決まりのコースを行き来します。ラ マという機種のエンジン音も耳に慣れていま す。でもその時は、重たい音のヘリが、とて も近くを飛んでいるように感じ、外に出てみ ると警察のヘリでした。西穂の稜線から吹き だしてくるガスの流れに逆らうように飛んで いましたが、まっすぐには進まず、機体がふ らふら揺れて見えました。雪道で、滑ってお 尻を振りながらなんとか走っている車があり ますが、そのような飛び方でした。よっぽど 風が強かったのでしょう。何度か西穂の稜線 へ進入を試みましたが無理なようで、他の方 へ飛んで行きました。



秋の陽を受けて輝くカラマツの黄葉と梓川、後方は六百山

山研にも雪の影響がありました。ある会員が明神岳から予定より1日早く下りてこられました。雪のため縦走を断念したとのこと。でも、その後の2日間を写真などに充てられ、徳本峠、西穂方面へ日帰りで出かけられました。あとで写真を見せていただきましたが、紅葉に雪が加わってとてもきれいな風景でした。雪のため撤退というマイナスをプラスに変えた柔軟さを素晴らしいと感じました。

そして10月下旬、山研の表階段脇のサワグルミはほとんど葉を落しました。それと入れ代わりにハルニレが激しく落葉しています。一方、テラスの上のカツラは黄葉の盛りです。そういえば、いつの間にか丸裸になっていたシラカバは白い幹がまぶしいです。カラマツも黄葉し、風が吹けばパラパラ葉を落とし始めました。

紅葉の幕開けの時とは違い、タイミングの ずれが良い感じです。自然はやっぱりデジタ ルではなくアナログがしっくりきます。

今シーズン、上高地の紅葉は実はとてもゆっくりたっぷりと楽しめることに気づきました。なぜなら、見上げる3000行級の山々から上高地まで、1500行というとてつもない高度差を下りてくるわけですから。

このさんけん通信が届く頃、上高地は冬の 装いに変わっていることと思います。ぜひ来 年の秋、この紅葉をご一緒に楽しみましょう。



# スキー懇親会ご案内

## 事業委員会

場所 懇親会を次の日程で開催します。 毎冬恒例の事業委員会のスキー 戸隠スキー場 07年1月6日出~8日月

2万3000円 通信費等 (宿泊料

現地集合・解散 山宿 戸隠小舎

30名

12月13日までにメールまた はFAXで山崎浩子宛

045-782-8712

⊠y-hiro@fa3.so-net.ne.jp)

## 習会 山スキーヤーのための雪崩講 指導委員会

ます。 マスターし、 から派遣 レスキューの基礎講習を実施し 経験者) 山スキー中級者 講師は日本雪崩ネットワ 向けの雪崩原理、 山中2~3泊のツア (中斜面滑降を セル

場所 日時 栂池・八方尾根周辺 07年2月3日出~4 日 (宿泊 (日)

費用 概算3万5000円 は八方山麓 (受講

合 宿泊費等

申込 松沢節夫まで

問

⊠adh08760@syd.odn.ne.jp III 042-623-5666

# 舟橋栄子の講演と上映

レスト登頂山行の記録映画、 ントとして講演 図書「小谷コレクション」のイベ ンプリ作品などを上映 登頂の実態」 信州大学総合図書館付属の山岳 および今春のエ 「最近のエベレス グラ

期日 信州大学付属図書館統括課 0263-37-2173 信州大学理学部大会議室 11月22日水13時~15時

内線2302 桃井まで

小島烏水 版画コレクション展

日本近代登山のパイオニア、紀

足跡とお人柄を偲んでいます。

(奈良千佐子)

行文学者、

版画コレクターなど多

画などを展示 彩な活動を展開した鳥水旧蔵の版

場所 会期 横浜美術館(1100 07年1月22日月~ 4月 45-22 4日水

http://www.yaf.or.jp/yma/

# 訂正とお詫び

訂正します。 注釈のなかで「戦後」とあるのは 戦前」の誤りでした。 10月 (737) 号75~2段2行、 お詫びして

## **❖編集後記❖**

ツと、 できないのが残念! 川です。皆さんにカラーでお伝え 素晴らしい、がんばれ学生部 う思いで編集しました。若い ました。みごとに黄葉したカラマ えした上高地の写真が送られてき を余すことなくお伝えしたいとい ル遠征報告は、純朴で素直な表現 学生部によるパンバリ・ヒマー 会報編集の指針であった小倉厚 さんけん通信には、秋色に衣替 ョッピリ熱くなりました。 陽を受けてキラキラ輝く梓 ! って

さんの訃報にふれ、改めて偉大な 日本山岳会会報 山 738号

ルは、 頂報告をいただきました。 登頂です。そのパンバリ・ヒマー 部によるパンバリ・ヒマールの初 志隊によるマナスル登頂と、 今月はうれしいニュースがふた つ入ってきました。 隊長による心のこもっ 日本山岳会有 た登

責任の重さを感じながら、 冥福をお祈りします。 に早い訃報に言葉もありません。 と頼まれました。その後のあまり 会報と目録のこれからをよろしく んから電話で連絡をいただいて、 もらっていました。生前、 最近は50号ごとの目録を担当して で関塚さんが書かれているように、 が亡くなりました。 ました私たちの先輩、小倉厚さん た。会報『山』の編集長でもあり ●逆に悲しい訃報も入ってきまし ージをつくりました。 追悼のページ 心からご 追悼の

2006年(平成18年) 11月20日発行 発行所 社団法人日本山岳会 ₹102-0081 東京都千代田区四番町5-4

TEL 東京(03)3261-4433 FAX 東京(03)3261-4441 日本山岳会会長 平山善吉

E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp 印 刷 株式会社 双陽社

神長幹雄

サンビュウハイツ四番町